

＜資料 2＞

＜令和 5 年度の主な課題＞

1 アフター・コロナにおける教育活動の充実

5月から新型コロナの感染症としての分類が5類となり、学校ではインフルエンザと同等の対応となった。新型コロナの感染拡大時期には、多くの教育活動に制約があったが、同時に活動の精選につながった面もあった。アフター・コロナの局面を迎え、これからの教育活動のあり方について、柔軟な発想で考えていく必要がある。

○学校行事の公開等

- ・参観授業
- ・体育祭，文化祭
- ・PTA 活動（総会，給食試食会，救急救命法講習会，愛校作業 など）
- ・その他

○「人との出会い」から学ぶ教育活動の充実

- ・元教員 腰塚勇人さんによる「命の授業」
- ・宇宙飛行士 毛利衛さんの講演会
- ・その他（DV 講演会，スマホ安全教室，主権者教育講演会 など）

○オンライン環境の活用

- ・全校集会
- ・カウンセリング室からの授業参加（不登校対応）
- ・その他

2 生徒主体による校則の見直し

3 部活動の地域移行

国は、休日の部活動を段階的に地域委託する方針を示しており、本校も休日の部活動のあり方を中心に改善を図っている。

○部活動指導員・部活動支援員の配置

ソフトテニス部，新体操部，バスケットボール部，柔道部（前期）

○柔道部の地域移行（R5後期から）

○主な課題

- ・指導者や活動場所の確保
- ・指導者への謝金等の費用負担

4 不登校生徒への対応

現在、生徒の生活態度には節度があり、学校全体としてたいへん落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。その反面、長期間にわたって登校できていない生徒や欠席しがちな生徒が多く課題となっている。

○個々の生徒への取組

- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、「はなみずき学級」(市適応指導教室)等との連携
- ・学校や社会とつながる機会の創出

○学校全体としての取組

- ・「ポジティブな行動支援」の導入

5 地域連携及び学校間交流の推進

生徒たちが夢や希望を膨らませるとともに、「ふるさと小松島」を大切にする気持ちが育つよう、「地域とともにある学校づくり」を推進していきたいと考えている。

○地域とともに行う活動の推進

○環境整備教育支援員さんによる学校花壇の整備

- ・生徒による「水やり・草抜きボランティア」活動

○地元の小中高校との交流学习

- ・(小) 松中校区6校合同学習会、英語授業の合同研究会 等
- ・(中) 連合音楽会、弁論大会 等
- ・(高) 高校生による中学校での授業、高校生主体の植樹活動への参加 等

○市学生議会等への参加 (R4) ・ ・ 小松島市の未来を考える機会に

6 GIGAスクール構想の推進

すべての生徒にタブレットPCが貸与され、これまでに「GIGAスクール構想」をある程度推進することができた。今年度も引き続き、タブレットPC等を効果的に活用した授業づくりを進めていきたい。

○一人1台端末(タブレットPC)を活用した授業づくり

- ・学習用アプリの効果的な活用について校内研修を実施

7 若手教職員の育成

現在、多くの学校現場で、教職員の年齢構成が20代～30代前半の「若手」と、50代の「ベテラン」に2極化しており、特に若手の育成が喫緊の課題となっている。本校でも、若手教職員育成のために「徳島型メンター制」を取り入れた研修等を実施している。